

社会・地域貢献

アーセナル・レディース日本チャリティーツアー2011

Arsenal Ladies Japan Tour 2011

原田公樹 (ツアースーパーバイザー)
中村昌次 (学校法人後藤学園)
河合一武 (武蔵丘短期大学)

【はじめに】

本学女子サッカー部シエンシアはこの 15 年間、毎年夏にアーセナル・レディースの協力のもと、ロンドンでサマーキャンプを実施してきた。この長年にわたる交流に感謝し、同時に 2011 年は、本学の創立 20 周年、母体の学校法人後藤学園が創立 60 周年にあたることをうけ、記念行事としてアーセナル・レディースを日本へ招待する計画がもちあがった。

2010 年夏ごろから計画を具体化し、関係各所と詳細を詰めていたところ 2011 年 3 月 11 日、未曾有の大災害が東北地方を襲った。福島第一原子力発電所の事故による放射能漏れの恐怖と、余震が頻発するなか、日本全土で数々のスポーツイベント、記念行事などが中止、また自粛された。この国内のムードをうけ、本計画も延期、または中止が検討された。

しかし、ほどなくして日本では復興ムードが高まった。サッカーを通じた支援活動の一環として計画を実施するべきではないか、という意見が出た。これを検討し、アーセナル・レディース側に改めて打診したところ、「選手やスタッフの安全が確保されるならば、東日本大震災により被害を受けた方々、東北サッカー界の復興を支援するために出場料なしで、喜んで力になりたい」との返答を得た。2011 年 6 月にアーセナル・レディースの最高責任者である、クレア・ウィートリー育成部長が事前視察のために来日。本校および後藤学園、またスタジアム、日本サッカー協会などを訪問した。このウィートリー部長の報告を受け、アーセナル FC から、正式に「日本復興支援のためチャリティー活動として、アーセナル・レディースを日本へ派遣する」との信書を受け取った。

この正式決定から来日までわずか 4 カ月半という、非常に異例の準備期間が極端にないなか、河合一武教授のもと、アーセナル・レディース、なでしこリーグ、ほか多くの関係者の多大な協力を得て、「スケジュール表 (Arsenal Ladies Japan Tour 2011 Timetable ver. 7.15)」の通り、11 日間の日本滞在中に「TOYOTA Vitz Cup」、本学女子サッカー部との練習試合、日テレ・ベレーザとのチャリティーマッチの 3 試合、また紅葉の季節の京都旅行や武蔵丘短期大学での異文化交流会などの予定が組まれた。同時に、来日記者会見や歓迎パーティーの準備は、後藤学園の中村昌次理事の陣頭指揮のもと、スタッフの献身的な協力を得て、非常に限られた時間のなか、急ピッチで受け入れ態勢を確立していった。

Arsenal Ladies Japan Tour 2011 Timetable ver. 7.15

update: 21 Nov 2011
modify: underlined



date	Thu 24th Nov	Fri 25th Nov	Sat 26th Nov	Sun 27th Nov	Mon 28th Nov	Tue 29th Nov
6.00						
6.15						
6.30						
6.45						
7.00		(approx. 11hrs)		7:00 Breakfast		
7.15					7:30 Breakfast	
7.30						
7.45						
8.00			8:00 Breakfast	Check-out Sunshine 8:00 Dep Sunshine ↓ (coach 9km, 30min) 8:30 Arr Tokyo station	8:30 Dep Matsui Honkan	8:00 Breakfast
8.15						
8.30			8:45 Dep Sunshine ↓ (coach 25km, 45min)			8:45 Dep Sunshine ↓ (coach 9km, 30mins)
8.45			9:30 Arr Reds Land	9:10 Dep Tokyo station (Super Exp Nozomi 21 470km, 2hs 20min)	Kyoto Sightseeing Kinkaku-ji Ryukan-ji Arashiyama area	9:15 Arr Asakusa Asakusa Sightseeing
9.00			10:00 - 11:30 Training @ Reds Land after training pennant exchange and photo with Urawa Reds (5mins)			
9.15						
9.30						
9.45						
10.00						
10.15						
10.30						
10.45						
11.00						
11.15						11:00 Dep Asakusa ↓ (coach 3km 20min)
11.30				11:28 Arr Kyoto station (boarding coach)		11:30 Arr Akihabara
12.00			12:00 Lunch (nearby <u>Family Restaurant TBD</u>)	12:00 Lunch (Sandwich in the coach)	12:00 Lunch (Benkei)	12:00 Lunch in Akihabara (to be chosen and paid from individual allowances)
12.15						
12.30						
12.45						
13.00			13:15 Dep (TBD) ↓ (coach 25km, 30mins)	Kyoto Sightseeing Higashiyama Area Kiyomizu-dera Sanjiyu-sangen-do Nijo-ryo		
13.15			13:45 Arr Sunshine		13:45 Dep Arashiyama	
13.30			Possible 14:30 Dep Sunshine ↓ (coach xkm, 30min)			14:30 Dep Akihabara ↓ (coach 7km 25min)
13.45			15:00 Arr Nike Store Visit Nike Store			15:00 Back at Sunshine *press conference staff head for Nishigaoka fr here if scouting at INAC training or
14.00						16:15 <u>staff dep Sunshine</u> ↓ (car 6km, 15mins)
14.15						16:30 Arr Nishigaoka
14.30						17:00 Press Conference @Nishigaoka Stadium
14.45						17:30-18:00 Pre-match Staff Meeting
15.00						17:30 players dep hotel 18:00-20:00 Training (Open) @Nishigaoka Stadium
15.15						
15.30	15:30 Dep London Colney (coach 30km, 1hr)	15:25 Arr Narita	16:15 Dep Sunshine ↓ (coach xkm, 40min)	16:00 Arr Matsui Bekkan Check-in Matsui Bekkan	15:16 Dep Kyoto station (Super Exp Nozomi 32 470km, 2hs 20min)	17:45 players arr stadium 18:00-20:00 after-match interviews at mix zone & by NTV BS
15.45		Meet with BF staff at arrival gate	16:40 Dep Sunshine ↓ (walk 1km, 15min)	16:30 Walking & Shopping	17:26 Arr Shinagawa st	20:00 Dep Stadium ↓ (coach 6km, 15min)
16.00	16:30 Arr LHR Terminal 3 meet with Masa	16:30 Dep Narita (coach 80km,1hr)	16:55 Arr Goto Gakuen		17:40 *Dep Shinagawa st (JR Yamanote Line, 5 stations 12min)	20:15 Arr Sunshine 20:30 Dinner (Sunshine B1 Buffet)
16.15						
16.30						
16.45						
17.00						
17.15						
17.30						
17.45						
18.00						
18.15						
18.30						
18.45						
19.00						
19.15						
19.30						
19.45						
20.00						
20.15						
20.30						
20.45						
21.00						
21.15						
21.30						
21.45						
22.00						
22.15						
22.30						
22.45						

MC:Musashigaoka College
TBD: to be decided

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

Matsui Bekkan
<Hanakanzashi>
<Kyoto>

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

*staff will take luggages from
Shinagawa st to Sunshine

(continued overleaf)

アーセナル・レディース日本チャリティーツアー2011

(continued)



date	Wed 30th Nov	Thu 1st Dec	Fri 2nd Dec	Sat 3rd Dec	Sun 4th Dec	Mon 5th Dec
6.00						6:30 Breakfast
7.00				7:30 Breakfast		
8.00			8:00 Breakfast	Check-out Heritage 8:30 Dep Heritage (coach 13km, 35min)		Check-out Sunshine 8:00 Dep Sunshine (by coach 80km, 1hr)
9.00	9:30 Breakfast	9:30 Breakfast	8:40 Dep Heritage ↓ (coach 13km, 35min) 9:15 Arr MC	9:05 Arr MC		9:00 Arr Narita
10.00	10:30 - 11:30 Walking? (Rokugien?) *4km away from Sunshine	Check-out Sunshine 11:00 Dep Sunshine (coach 60km, 1hr)	10:00 Training Match vs Musashigaoka (MC) (45min x 2)	10:00-11:30 Soccer Clinic(MC) (60-70 girls will be 3 groups)	09:30 Brunch	
11.00					10:30 Dep Sunshine (coach 40km, 1hr)	
12.00					11:30 Arr Stadium	11:35 Dep NRT (NH201)
12.00		12:00 Arr Peony Walk Shopping (Peony Walk Higashi Matsuyama)	12:00-12:45 Shower & Dress-up	12:20 Dep MC (coach 3km, 10min) 12:30 Arr Shiunkaku 12:30 Lunch (Shiunkaku)		(approx. 12hrs)
13.00	13:00 Lunch	13:00 Lunch	13:00 Welcome Party (MC) Lunch (Place TBC)	13:40 Arr MC (coach 3km, 10min)	13:30 Match vs. Beleza @Tama City Field and Track Stadium	
14.00		14:00 Dep Peony Walk ↓ (coach 5km, 15mins) 14:15 Arr MC 14:30 - 16:30 Training (MC) (Closed session)	15:00 Dep MC ↓ (coach 13km, 35min) 15:35 Arr Heritage possible visit near shrine on way back	14:00 - 16:00 Training (MC)	after the match, charity activity with Tohoku children (TBD)	
15.00				16:00 Snack/ sandwich after training	Fruits & Light snack in changing room/ coach 16:45 Dep Stadium (coach 40km, 50mins)	
16.00	15:30 Pre match meal & meeting (Sunshine Anex)			16:30 Dep MC (coach 69km, 1hr)	17:35 Arr Sunshine	
17.00	16:30 Dep Sunshine ↓ (coach 6km, 15min) 16:45 Arr National Stadium	17:00 Dep MC ↓ (coach 13km, 35min) 17:35 Arr Heritage Check-in Heritage		17:30 Arr Sunshine Check-in Sunshine		
18.00	18:05 Pre-match Staff Meeting	18:30 Dinner				
19.00	19:15 Match vs. League Champion (National Stadium in Tokyo)		19:00 Dinner	19:00 Dinner (Sunshine B1 Buffet)	19:00 Dinner (Shabu shabu restaurant in Ginza)	
20.00						
21.00	Fruits & Light snack in changing room/ coach					
22.00	22:00 Dep stadium ↓ (coach 6km, 15min) 22:15 Arr Sunshine					14:45 Arr LHR
23.00						

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

Heritage
<Kumagaya>

Heritage
<Kumagaya>

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

Sunshine Prince
<Ikebukuro>

MC:Musashigaoka College
TBD: to be decided

【記者会見】

ロンドンからの全日空機は、予定より少し遅れて 11 月 25 日 16 時すぎ、雨の成田空港へ到着した。来日メンバーはアーセナル・レディースのウィートリー部長、ローラ・ハーベイ監督ほか 4 人のスタッフ、19 人の選手、さらにツアーアタッシュ佐伯将史、ツアースーパーバイザー原田公樹の計 27 人である（「アーセナルレディース FC 2011 日本ツアー参加選手一覧」参照）。記者会見へ出席するメンバーは後藤学園の社用車で椿山荘へ向かった。そのほかのメンバーはバスで宿泊先のサンシャインプリンスホテルへ移動。雨天のうえ、月末の金曜日の夜で、そのうえ五十日にあたり、都内へ向かう高速道路はひどく渋滞していた。そのため出席者の会場到着が遅れ、予定より 1 時間遅れの 19 時から椿山荘のタワー8F コスモスで、記者会見は始まった。

アーセナルレディースFC 2011日本ツアー参加選手一覧

2011/11/17

No	ポジション	氏名 (カナ)	氏名 (英語)	国籍	代表歴	備考
1	1 GK	エマ・バーン	Emma BYRNE	IR	アイルランド代表	アイルランドのナンバーワンGK。アーセナル・アカデミーのコーチを務めるイングランドのすべてのカテゴリーで代表。2006-07年FA年間最優秀若手選手
2	2 MF	ステフ・ハウトン	Steph HOUGHTON	UK(EN)	イングランド代表	GK以外ならどこでもプレーできる。06年に前十字靭帯を損傷したが、その後復帰した不屈の超マルチ選手
3	3 DF	イボンヌ・トレイシー	Yvonne TRACY	IR	アイルランド代表	17歳で代表デビューを果たし、キャップ数は50試合で18得点の同主将。
4	4 MF	ジェーン・ラドロウ	Jayne LUDLOW	UK(WL)	ウェールズ代表(cap)	12歳のときからアーセナル育ち、15歳で一軍デビューした。体育専攻の大学生。
5	5 DF	ジリー・フラハーティ	Gilly FLAHERTY	UK(EN)	U-23イングランド代表	1997年からイングランド代表で、キャップ数は102試合。BBCなどで解説者も務める。2006年MBE叙勲。
6	6 DF	フェイ・ホワイト	Faye WHITE	UK(EN)	イングランド代表(cap)	10年以上にわたってアイルランド代表。キャップ数は60を超える同主将。
7	7 DF/MF	キーラ・グラント	Ciara GRANT	IR	アイルランド代表(cap)	2008年U-17女子W杯で主将。準々決勝で日本を延長PK戦で下し4強入り。2010年FA年間最優秀若手選手。
8	8 MF	ジョーダン・ノブス	Jordan NOBBS	UK(EN)	U-20イングランド代表	2010年の代表デビュー戦で初ゴールを決めたイングランド代表の新鋭ストライカー。2011年女子W杯の日本戦でもイングランド代表として116試合18得点で最多キャップ数を誇る。2011年女子W杯の日本戦で得点。2005年MBE叙
9	9 FW	エレン・ホワイト	Ellen WHITE	UK(EN)	イングランド代表	U-20イングランド代表の正GK。スポーツ専攻の大学生
10	11 FW	レイチエル・ヤンキー	Rachel YANKEY	UK(EN)	イングランド代表	14歳からスコットランド代表。キャップ数は60試合で17得点。今季WSLで12試合16得点を決めて得点王。
11	13 GK	レベッカ・スペンサー	Rebecca SPENCER	UK(EN)	U-20イングランド代表	16歳のとき日本戦で代表デビュー。キャップ数は60試合で17得点。今季WSLでは8試合14ゴールを決めたクラブ得点FA年間最優秀若手選手、FA年間最優秀選手とともに2度受賞。2人の息子の母親でもある
12	14 DF	ジェニファー・ビーティ	Jeniffer BEATTIE	UK(SC)	スコットランド代表	DF、MFのあらゆるポジションができるマルチプレーヤー。アイルランドの国技、ゲーリックフットボールの代
13	16 MF	キム・リトル	Kim LITTLE	UK(SC)	スコットランド代表	8歳のときからアーセナル育ち。今月、再び復帰した攻撃的な右サイドバック。今夏の女子W杯の日本戦でもプレー
14	17 MF	ケイティ・チャップマン	Katy CHAPMAN	UK(EN)	元イングランド代表	今月ウェールズ代表でデビューし、アーセナル・レディースのファーストチームでもデビューを飾った右サイドバック
15	19 DF/MF	ニーフ・ファーヒー	Niamh FAHEY	IR	アイルランド代表	アカデミー2年目のストライカー。スピードと頭脳プレーで将来を有望視される新鋭
16	22 DF	アレックス・スコット	Alex SCOTT	UK(EN)	イングランド代表	幼年期からアーセナルで育ち、現在アカデミーでプレーする生え抜き。精力的で勝負強いプレーが魅力
17	28 DF	アンハ拉德・ジェームズ	Angharad JAMES	UK(WL)	ウェールズ代表	
18	24 FW	リリー・アグ	Lily AGG	UK(EN)	なし	
19	30 MF	ピアンカ・ブラグ	Bianca BRAGG	UK(EN)	U-19イングランド代表	
20	育成部長	クレア・ウィートリー	Clare WHEATLEY	UK		
21	監督	ローラ・ハービー	Laura HARVEY	UK		
22	フィジオ	サム・ホワイトソン	Sam WHITESON	UK		
23	アカデミー部長/コーチ	ジョン・ベイヤー	John BAYER	UK		
24	広報	トム・ベネット	Tom BENNETT	UK		
25	フォトグラファー	デービット・プライス	David PRICE	UK		
26	アタッシュ	佐伯 将史	Masafumi SAIKI	JP		
27	ツアースーパーバイザー	原田 公樹	Koki HARADA	JP		

会場の壇上の上部には、「学校法人後藤学園 武蔵丘短期大学プレゼンツ アーセナル・レディース 日本チャリティーツアー 来日記者会見」と看板が掲げられていた。また登壇者の背後にはアーセナル・レディース、学校法人後藤学園、武蔵丘短期大学のそれぞれのロゴが印刷されたバックドロップが張られていた。これらは学校法人後藤学園広報部のスタッフが中心となって制作し、設置されたものである。

会場には、すべてのスポーツ紙のほか、全国紙、専門誌、フリーランス、またテレビ東京など約 25 社の記者が取材に訪れていた。海外の女子チームの来日会見にこれだけの記者が集まるのは異例のことである。2011 年夏にナadeshico ジャパン（日本女子代表）がワールドカップで優勝したことで、日本では空前の女子サッカーブームが起こっていたこと。また、2012 年夏にはロンドン五輪でナadeshico が英国代表と対戦することなど、話題が豊富だったことに加え、事前の告知が成功した成果である。

原田公樹の司会進行により、アーセナルのトム・ベネット広報が紹介され、アーセナルの FW 宮市亮、アーセン・ベンゲル監督からのビデオメッセージが流された。

続いて後藤人基理事長が、今ツアーが実現するに至った経緯や概要などが説明された。さらにウィー トリー部長、ハーベイ監督、DF ジェーン・ラドロー、MF ケイティー・チャップマンが挨拶。記者から質疑応答が行われ、通訳の新居由香氏の軽妙な逐語通訳も手伝ってとても活気ある記者会見となった。

終盤には日本ベースのファン組織「アーセナル・ジャパン」のメンバーから、選手らへプレゼントが渡され、和やかな雰囲気の中、約 1 時間にわたっておこなわれた記者会見は終了した。来場者が退場の際には、学校法人後藤学園や武蔵丘短期大学のパンフレットや武蔵野調理師専門学校スタッフのスタッフが作製したクッキーなどがお土産として手渡された。

この記者会見の様子は同夜、テレビ東京のスポーツニュース「ネオ・スポーツ」で放送された。翌日の各スポーツ紙、全国紙でもそれぞれ報じられた。なお、この記者会見の様子は、YouTube にアップされており、見ることができる。

【後藤学園ウェルカムパーティ】

11 月 26 日午前、浦和レッズの協力のもと、埼玉県さいたま市のレッズランドで来日後、初めて練習を行った。近隣のファミリーレストランで昼食をとったあと、原宿のナイキタウンを訪ねてサイン会などのイベントに参加。一旦サンシャインプリンスホテルへ戻ったあと、徒歩で学校法人後藤学園へ向かった。土曜日の夕方、トラックスーツ（アーセナルのジャージ）を着た選手、スタッフが買い物客でにぎわう池袋の町を歩く姿は注目を集めた。選手やスタッフらにとっては、ほぼ全員が初めてのアジア訪問。これまで映画やテレビで見てきた、看板やネオンサインが雑然と立ち並ぶアジア特有の町並みに興奮した様子だった。

学校法人後藤学園に到着するとその興奮はさらに増した。寒空の下、正面玄関でアーセナル・レディースの到着を待っていた、後藤人基理事長、武蔵丘短期大学の川合武司学長、中村昌次理事以下、大勢の教員やスタッフ、生徒から、大きな拍手が起こったからである。選手やスタッフらは、自分たちがこれほど歓迎されるとは、予想だにしていなかったようである。最初は戸惑った様子だったが、すぐに感激へと変わった。

記念写真に収まったあと、パーティールームに入ると、選手やスタッフらの興奮は最高潮に達した。部屋にはてんぷら、寿司、焼き鳥、デザートなどの豪華な日本料理のブースが設けられ、それぞれ美味しそうに料理が並べられて、いい匂いがかぐってきたからである。それぞれに料理を担当した教員が、正式な白い料理人の衣装を着てサーブしてくれたこともとても好評だった。すべての料理が最高級の味だったが、なかでも選手たちが好んだのはてんぷらと焼き鳥だった。気に入った料理を何度も繰り返し食べている選手もいた。

この日は来日して2日目。英国とは9時間の時差があり、この時点で彼女たちの体内時計は深夜だった。ホテルを出発するときは、長旅と練習の疲れと時差ボケにより疲れた表情の選手もいたが、いつのまにか全員がこの夢のような豪華なパーティーを存分に楽しんでいた。

後藤理事長の挨拶や、武蔵丘短期大学とアーセナル・レディースの橋渡し役で、今ツアーの実務を担当した、ロンドンに本社を置くベアフットの代表、クマ原田氏のスピーチなども場を盛り上げた。アーセナル・レディースからは、シルバウェアとペナントなどがウィートリー部長から後藤理事長へ贈られた。

最高級の料理人による、最高級の食材を使った、最高の雰囲気の中でのパーティーはとても盛況で、予定していた約1時間半は瞬く間に過ぎた。唯一の心残りは、美味しい料理をすべて食べ切れなかったことである。

【京都旅行】

京都へ出発する27日朝は、ちょっとした騒動で始まった。選手やスタッフは、部屋を一度チェックアウトして、ロビー集合の予定だった。しかし、選手たちにその予定がしっかり伝わっておらず、全員が荷物を部屋に残したままロビーへ下りてきた。その時点ですでに8時。東京駅を9時10分発の新幹線に乗らなければならない。一か八かの賭けだったが、大慌てで選手たちに「大至急、部屋へ戻って荷物をまとめてロビーへ下りてくるように」と指示。ドタバタと全員がバスに飛び乗って、池袋を出発したとき、時計は8時半を少し過ぎていた。

幸いにして日曜日朝の東京の町は空いていた。ところが新たな問題が持ち上がった。切符を確認すると、予約していた新幹線は9時出発だった。バスの運転手にそれを伝え、さらにスピードを上げ、本来は乗降できない東京駅八重洲口につけてくれた。そこから全員で新幹線のホームへ走った。さすが選手たちは足が速い。コンコースを外国人女性が団体で走り抜ける姿は目を引いた。ホームに到着したのは8時50分。乗るべき新幹線はまだ入線すらしていなかった。

11時すぎに京都へ到着し、貸し切りバスに乗り込むと、まず清水寺へ向かった。選手やスタッフたちは観光客でごった返すなか参道を上がり、おのおの写真を撮るなど楽しんでいた。英語のガイド、ミネコ氏の気の利いた面白い案内に導かれ、三十三間堂、二条城を回ったあと、京都和装小物「くろちく」へ行った。選手やスタッフたちは、後藤理事長から各5000円のお小遣いの入った小袋をもらい、日本の伝統的な和装小物を買っていた。そこから大渋滞の道路を避け、約25分歩いて松井別館へ到着した。

夜の宴会はまた盛り上がった。全員が浴衣を着て宴会場に集まり、器用に「はし」を使いながらステーキご膳を楽しんだ。

翌朝、旅館の朝食は口には合わなかったようで、チェックアウトしたあと、全員で近くのスターバックスで二度目の朝食を食べた。その後、嵐山へ向かい、赤く染まった山々を見て回り、竹林を歩いた。例年と比べて紅葉の訪れが少し遅かったことも手伝って、最高の時期の京都訪問だった。選手やスタッフは1年で最も美しい紅葉の京都を堪能した。

再び新幹線で東京へ戻った一行は品川で下車。山手線に乗って、渋谷へ向かった。時間は17時半。最も混み合う時間帯である。超満員の電車に慣れない選手たちのなかには、他の乗客に押され、押し返す選手もいた。

混みあう渋谷の町を抜け、宇田川町のチェルシーホテル（ライブハウス）へ向かった。武蔵丘短期大学サッカー部OGで、かつてアーセナル・レディースでもプレーした、ロックシンガー、石田ミホコのライブを楽しんだ。

【Toyota Vitz Cup】

最初の計画段階では、アーセナル・レディースと「なでしこリーグ選抜」が対戦できないか模索、検討された。これはハービー監督が日本の最強チームとの対戦を強く望んだからである。理想をいえば世界一の「なでしこジャパン」（日本女子代表）との試合だったが、代表チームがクラブと対戦することは難しいため、それに準じる形でマッチメイクができないか、日本サッカー協会、日本女子サッカーリーグへ働きかけた。

当時、日本国内では、2010年夏にドイツで行われた女子ワールドカップで日本が優勝し、空前の「なでしこブーム」が起こっていた。これに後押しされ、試合の規模は、当初の予想を遥かに超える大規模なものへ拡大していった。しかし東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により、2011年度のなでしこリーグの日程が変更。11月末まで日程がずれ込むことが決まったため、一時は頓挫しかけた。

紆余曲折あったが、なでしこリーグの田口禎則専務理事をはじめとする、関係者の尽力により、最終的に東日本復興支援を目的としたチャリティーマッチとして、11月30日（水）19時15分キックオフで、東京・国立競技場にて「Toyota Vitz Cup」として、2011年なでしこリーグの優勝チームとアーセナル・レディースの対戦が決まった。主催は公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人日本女子サッカーリーグ、冠スポンサーであるトヨタ自動車株式会社は特別協賛となり、協賛には株式会社プレナスに並び、本校「学校法人後藤学園 武蔵丘短期大学」も名前を連ねた。さらにBS日テレが生中継で全国放送することも決定。また入場料はブロック指定が前売り券、当日券とも2000円、自由席が1000円で、スポンサー料などを含めた収入のうち、経費を引いた収益金のすべてを日本サッカー協会の基金を通じ、寄付することも決まった。

日本女子サッカー史上において、最大級の規模の試合が行われることになったのである。INAC神戸がリーグ優勝を果たし、対戦カードが確定すると、BS日テレでさかんに番組告知が行われ、各メディアでも取り上げられた。また全国のトヨタ自動車の約5000の全販売店に、本学の名前の入った試合告知のポスターが多数掲示され、チラシも配布された。

当日は晴天に恵まれた。試合前には国立競技場のメインスタンド前の陸上トラック上で、本学の太田あや子教授が指導する、エアロビクス部の「マリリンズ」がパフォーマンスを披露し、場内を盛り上げた。

試合は19時18分に始まった。親善試合とはいえ、日本とイングランドのリーグチャンピオンの意地がぶつかり合う、真剣勝負だった。両者の力が拮抗するレベルの高いゲーム展開が続き、場内は熱気に包まれた。

先制したのはINAC神戸。70分に川澄奈穂美のパスから韓国代表の池笑然（チ・ソヨン）が先制ゴールを決めた。アーセナル・レディースはイングランド代表のレイチェル・ヤンキーとエレン・ホワイトを中心に反撃に出て、78分、途中出場したジェニファー・ピーティアーが同点ゴールを決めた。結局、そのまま1-1の引き分けに終わったが、このスコア以上に試合内容は充実していた。最優秀選手には先制点を決めた池笑然が選ばれた。平日の夜にもかかわらず、スタンドを埋めた1万1005人の観衆は、女子サッカーの最高峰の戦いを満喫した。

試合後には両チームの選手たちが、代わる代わる優勝カップを手にしながら、ともに国立競技場内をビクトリーラン。場内の熱気をいつまでも冷めることはなかった。

東京中目スポーツ 2011年(平成23年)11月30日(水曜日)

INAC神戸vsアーセナルレディーズだけど
なでしこvs英国
代表選手多数五輪前哨戦だ

きよひこ親善試合「TOYOTA VITZ CUP」
なでしこリーグ王者のINAC神戸(内巻録義)は注目はなしは30日の総試合TOYOTA VITZ CUP(国立競技場)で、五輪前哨戦として、アーセナルのアーセナルレディーズ(イギリス)と対戦する。両チームは白に黒のストライプのユニフォームを着用し、前哨戦か。

M F キム要注意
史上初の白英1ヶ朝者対決に備えて、動員率を上げて探したアーセナルの映像を見たという、M F キムは、この試合で活躍を期待する。M F キムは、この試合で活躍を期待する。M F キムは、この試合で活躍を期待する。

「自信ある」
来日して1週間で2日の京都府立大学で行われた練習試合で、朝食の小鉢、イギリスの風情とまった。自分も、日本を代表する選手として、この試合で活躍を期待する。

4協会代表
今季リーグ戦でチーム最多得点、得点王となったINAC神戸と来季のスコットランド代表も、この試合で活躍を期待する。

新CM発表会で今年を表す漢字を「絆」と表した沢(下段中央) = 東京都内で

アーセナル入りか
本代表の早大W大福藤未(左)がアーセナルレディーズの練習に参加。海外志向の高いスリナムカデミーの練習にも、積極的に参加している。

ちなみにこの「Toyota Vitz Cup」を拡大する形で 2012年に女子サッカーの国内外4クラブが参加し、「国際女子サッカー選手権 2012」が開催された。同じく平日夜、NACK5 スタジアム大宮で行われ、1回戦2試合の観客動員数は延べ3320人で、決勝は4201人と伸び悩んだ。いかに「Toyota Vitz Cup」が本学をはじめとする関係者の努力と「なでしこブーム」と「復興支援の力」に助けられ、注目を集めたか。1年の歳月を経て改めて明確になった。

【親善試合】vs 武蔵丘短期大学

12月2日(金)午前10時から、本学のサッカーグラウンドにて、本学サッカー部シエンシアとアーセナル・レディーズとの親善試合が行われた。曇り空のもと、試合は始まった。序盤、その鉛色の厚い雲のようにアーセナル・レディーズの選手たちは、動きが鈍かった。来日して8日目。ほとんどの選手はすでに時差ボケを解消していたが、遠征の疲労が出ていたからだ。なかでも2日前にINAC神戸との

試合に先発した選手たちの疲労の色は濃かった。一方、シエンシアの選手たちは、機敏に動き回って、積極的に仕掛けた。この一戦は一般には非公開だったが、ピッチの周囲には、本学の多くの学生が観戦に訪れていた。その応援の声に後押しされるように、果敢にゴール前へボールを運ぶが、チャンスまでは作れない。アーセナル・レディースが動きこそ緩慢だが、フィジカルで勝るため、巧みにシエンシアの攻撃の芽を摘み取っていたからだ。



この試合は、武蔵丘短期大学とアーセナル・レディースとの15年間にわたる強い絆を象徴する一戦だった。この年、アーセナル・レディースは新設されたイングランド・FA スーパーリーグ、女子FAカップ、WSL リーグカップの3冠を達成したイングランド最強チームだ。この時点で同シーズンの欧州女子チャンピオンズリーグで8強へ駒を進めていた。

欧州屈指の強豪が、伝統の赤と白のアーセナルのファースト・ユニホームを着用し、本学サッカー部シエンシアと、45分ハーフの真剣勝負を行っていた。余談だが、本ツアーでアーセナル・レディースは、INAC 神戸戦、日テレ・ベレーザ戦で、紺色のセカンド・ユニホームを着用した。つまりこの一戦は日本でファースト・ユニホームを着用した、唯一の試合だった。

実はこの親善試合の試合形式について、事前の話し合いの段階で、河合一武監督（教授）からアーセナル・レディース側に対して「30分×3本でどうか」。ユニホーム着用の有無についても「練習試合なのだからピブスでも結構」という打診がなされた。しかし、アーセナル・レディースのほうから、「45分ハーフによる、正式な試合として行いたい。ユニホーム着用でお願いしたい」と返答があった。長年にわたる武蔵丘短期大学との友情関係を重んじ、シエンシアに対する真摯な尊敬の念によるものだった。



試合は 13 分、アーセナル・レディースのキム・リトルが強烈なシュートをゴール隅に決めて先制した。これを合図に猛攻を仕掛け、アレックス・スコット、エレン・ホワイト、ジェニファー・ビーティが連続ゴールを決め、前半だけで 4 点を奪った。しかし、後半に入るとシエンシアは堅守に転じ、なかなか追加点を許さなかった。60 分には反撃を仕掛け、関根（背番号 25）が DF を振り切って左足で絶好のシュートを放ったが、GK エマ・バーンにわずかに右手で弾かれた。75 分、アーセナル・レディースはビーティが右サイドから切り込み、ゴール左にボールを突き刺し、この日 2 点目を挙げた。シエンシアは終盤、卒業生で 2003 年から 1 シーズン、アーセナル・レディースでもプレーしたロックシンガーの石田ミホコを投入。反撃を試みたが及ばなかった。0-5 での大敗だったが、欧州屈指のアーセナル・レディースとの真剣勝負から、シエンシアの選手たちは多くのことを学んだはずだ。試合後にはともに健闘を称え合い、記念写真に収まった。

【武蔵丘短期大学ウェルカムパーティ：異文化交流】

「異文化交流」についての詳細は、本紀要における菊池せつ子氏の報告に譲る。

【サッカークリニック】

12 月 3 日（土）は朝から大雨が降っていた。本来サッカークリニックは本学の自然芝と人工芝のピッチを使い、すべて屋外で行う予定だった。しかし荒天のため急遽、プログラムの変更を余儀なくされ、体育館と食堂などを使って実施した。

このサッカークリニックは本学の地元貢献の一環として、計画されたもので、埼玉県下の屈指の女子チームである、埼玉県女子サッカー連盟の柴田氏の協力を得て、U-15 埼玉代表の 58 人が参加した。また東日本大震災の復興支援の一環として、社団法人全国大学体育連合から 30 万円の援助を受け、遠

く福島県立富岡高校から10人が参加した。

また、アーセナル・レディースは本ツアー中に将来、アーセナル・レディースでプレーできる才能を持った優秀な若手を発掘したいという考えも持っていた。これはアーセナル・レディースのエリート・エディケーション・プログラム (EEP) ダイレクターを兼務するハービー監督の希望によるものである。これをうけて<金の卵を探せ>作戦と銘打ち、実行委員会を設置。メディア等を通じて、「13-18歳までの女子で地区トレセンに一度でも選ばれたことがあるか、もしくは同等以上の能力を持つ選手」という条件で参加希望者を公募した結果、京都や山梨など各県から計7名が集まった。

年齢やレベルによって3グループに分けられ、アーセナル・レディースのハービー監督、バイヤーコーチ、各選手らの指導のもと、セッションは行われた。当日、急遽、予定が変わったにも関わらず、非常にスムーズにプログラムは進行し、集まった女子選手たちはとても楽しそうだった。これはアーセナル・レディースの選手たちが、率先して即興でクリニックのメニューを考えてくれたからである。また座学のプログラムでは、クイズ大会などを行い、とても盛り上げてくれたことが大きい。

また、「金の卵」が加わったグループは、大雨のなか、人工芝のピッチでミニゲームを行った。人工芝の水が溜まるほどの悪コンディションだったが、全員が大いに楽しんだ様子だった。ハービー監督は「何人か優秀な選手がいた。いますぐでなくても、今日学んだことを生かして、将来、アーセナル・レディースでプレーすることを目指して頑張る欲しい」と声をかけた。

クリニックの最後には、体育館に参加者全員が集まり、アーセナル・レディースから「修了証」とグッズのプレゼントが手渡された。記念写真を撮るなど、参加者全員が満足した様子だった。当初は悪天候により実施が危ぶまれたサッカークリニックだが、たいへん盛況だった。

当日、NHKが取材に訪れており、この模様は後日、朝7時のニュース「おはよう日本」で放送された。

【チャリティー試合】 vs 日テレ・ベレーザ

アーセナル・レディースにとって本ツアーの最終戦だった。当初、浦和レッズレディースと試合を行うことで交渉を重ねてきた。J1リーグ終了後に浦和レッズが行う「後援会大納会」(入場料なし)のあと、埼玉スタジアム(収容人員6万3700人)で、浦和レッズレディースーアーセナル・レディース戦を行えないかと打診があった。しかしアーセナル・レディースとしては、今回のツアーは全面的にチャリティーを目的としており、他イベントの一部ではなく、できれば有料試合として行い、その収益金から義援金を生み出し、日本の復興の手助けをすることを念頭においていた。結局、双方の都合が折り合えず、実現しなかった。後日談ではあるが、同シーズン浦和レッズは低迷し、何とか残留を果たした。そのため、この同4日に行われた「後援会大納会」では、集まった906人のファンに対し、橋本光夫社長が謝罪する事態となった。結果的にこのような陰悪な状況下で試合を行わなかったことは、本学およびアーセナル・レディースにとって利運だった。

代わって、日テレ・ベレーザを交渉した結果、12月4日(日)13時30分から、多摩市立陸上競技場(東京都多摩市)にて、「東日本大震災復興支援 チャリティーマッチ 多摩市・東京ヴェルディ・学校法人後藤学園協働事業」として慈善試合を行うことが決まった。入場料は無料だが、各入口で義援金を募ることも決定した。日テレ・ベレーザは、なでしこリーグ最多優勝を誇り、同シーズンはリーグ2位で終えた強豪である。アーセナル・レディースはINAC神戸に続き、日本のナンバーワン、ツアーのチームと対戦した。

さらに同戦には、本学に加え、「財団法人 日本英語検定協会」が協賛し、バス3台を仕立て、宮城、福島の東北2県から小学生の女子サッカー選手を中心に約200名が無料で招待された。

12月4日は朝から好天に恵まれた。キックオフ前にはベレーザ主将のDF岩清水梓が、集まった約2000人の観客に義援金の協力を呼びかけた。試合は開始3分、アーセナル・レディースがエレン・ホワイトの豪快な中距離弾で先制した。その6分後、キーラ・グラントの不幸なオウンゴールで1-1としたが、その後ジョーダン・ノブス、ジェニファー・ビーティーが連続ゴールを決め、前半を終えて3-1。後半アーセナル・レディースは堅守ぶりを発揮して、そのまま3-1で日テレ・ベレーザを下した。この試合の様子は「ニコ動」でインターネット中継された。

これで本ツアーでのアーセナル・レディースの通算成績は2勝1分け。ハービー監督は「一度も負けなかった」と満足そうだった。

試合後、ピッチを4分割して、東北2県から招待された小学生200人と地元多摩市の子供たち、アーセナル・レディース、日テレ・ベレーザの選手たちが入り混じり、ミニサッカー大会が開催された。アーセナル・レディースは2人のケガ人の除く、17人の選手がピッチで子供たちとボールを追った。フル出場した選手たちは、相当に疲れているにもかかわらず、自ら進んでミニサッカーに参加した。

その後、ピッチの至るところで即席のサイン会が起こった。アーセナル・レディースの選手たちは、誰一人としてロッカールームへ引き上げていく者はおらず、いつまでもピッチ上で子供たちからのサインに応じ、一緒に記念写真に収まった。時間にしたら、試合終了からミニゲームも含め、約1時間も子供たちと触れ合っていた。選手たちは義務感ではなく、逆に楽しんでいるようだった。アーセナル・レディースたちの振る舞いは、サッカー選手としてだけでなく、人として尊敬に値した。

後日、招待した東北の子供たちのチームの関係者や父兄から、感謝のメールをいくつか頂いた。子供たちは、試合観戦以上に試合後、ピッチでアーセナル・レディースの選手たちと一緒にボールを蹴り、サインをもらい、記念写真を撮るなど、触れ合ったことを喜んでいたとのことだった。アーセナル・レディースは、被災地の子供たちの心に直接響く、とても重要な慈善活動を行った。

本ツアーは、その実施にあたり、多方面の本当に多くの関係者によるご理解とご協力により実現した。心より感謝を申し上げます。さらに、東日本大震災と時を同じくした本ツアーの成功をその被害者・被災者の方々に捧ぐ。